

福鉄、えち鉄 連携強化

災害時 振り替え、代行 相互協力

福井鉄道とえちぜん鉄道は二十七日、災害時などの連携強化に向けた協定を結んだ。大雪や事故の発生時など列車の運行に支障が出た場合、振り替え輸送や代

行輸送で相互協力すること
で、緊急時の利便性の向上
が期待される。
福鉄の福井駅―田原町
と、えち鉄の福井―田原町
の区間で、自然災害や運転



協定を結んだえちぜん鉄道の豊北社長(左)と福井鉄道の村田社長(中)、県コンクリート診断士の山川会長(右)福井市のアオッサで

事故、線路・信号設備の故障などで運行できなくなつた場合、運行不能区間を含む乗車券を持つ利用客が運賃の支払いなしに、もう一方の鉄道会社の列車を利用して迂回できる。この区間で両方とも運行できなくなつた場合、福鉄が可能な限り同社のバス部門に要請し

て代行バスを用意する。
協定の締結式が福井市のアオッサであった。福鉄の村田治夫社長は「新型コロナウイルスの感染が拡大する中で厳しい環境だが、利便性の向上がお客様サービスにつながり利用者の増加につながると思つている」とあいさつ。えち鉄の豊北景一社長は、二〇一八年二月の大雪を踏まえて両社が災害時の相互協力協定を既に結んでいることを念頭に「さらに安定した輸送の確保ができるのではないかと考えている」と力を込めた。
両社は二十七日、県コンクリート診断士会と、鉄道施設の検査・診断などの支援に関する協定も締結。橋などの検査や修繕方法、調査などで指導や助言を受ける。会の山川博樹会長は「会の最も大きな目的は社

会全般の安全に寄与していくこと。協定は地域貢献の意味でも非常に意味があると思つている」と話した。
(鈴木啓太)